

ホノルル美術館所蔵

## 浮世絵風景画名品展

主催：静岡県立美術館、産経新聞社  
 後援：アメリカ大使館  
 協力：日本航空  
 協賛：JR東海、静岡リビング新聞社  
 会期：前期 = 11月1日(土)～11月16日(日)  
       後期 = 11月18日(火)～12月7日(日)  
 休館日：毎週月曜日（ただし、11月3、24日（月・祝）は開館、翌日休館）  
 会場：第1～6展示室

ハワイのホノルル美術館にはアメリカ人作家ジェームズ・ミッチナーの旧蔵品を核とした浮世絵版画が所蔵されており、質量共に優れた世界有数のコレクションとして知られる。美人画、役者絵など全域に渡り良質の作品が収められているが、本展は中でも特に風景画に焦点を当てて展覧した。

浮世絵は、天保期（1830～43年）に風景画を主役とした第二次出版ブームを迎え、葛飾北斎、歌川広重の二大絵師ほか、溪斎英泉、歌川国芳、歌川国貞ら優れた絵師が多く登場した。おりからの旅ブームの世相を取り入れて江戸名所や諸国名所、道中ものなどの新企画が相次いで出版され活況を呈したが、本展ではそれらの代表的作品を展示することができた。また、西洋の「遠近法」「陰影法」を取り入れたり、新来の化学染料「ペロ藍」を用いたり、時代に即応して工夫を凝らした数々の斬新な作品も多く展示され、庶民芸術としての浮世絵の特質も実感される充実した内容だった。作品保存の観点から会期半ばで全作品を展示替えたが、葛飾北斎「富嶽三十六景」は後期に36点を並べるなどし、前・後期どちらをも楽しんでもらえるよう工夫した。また共通割引券を作り、前・後期併せた観覧を促した。

展示は、「1 江戸名所」「2 富嶽三十六景」「3 諸国名所」「4 道中絵」「5 説話の風景」の5部構成。なお本展は、当館のほか千葉市美術館、秋田市立千秋美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、大分市美術館を巡回する5館巡回展であった。

### カタログ

29.9 × 23.0cm 264頁

#### 本文

「はじめに」/ステファン・リトル（ホノルル美術館館長）

「ホノルル美術館の浮世絵コレクション」/ジュリア・M・ホワイト（ホノルル美術館 東洋美術部長）

「浮世絵風景画の魅力」/小林 忠（学習院大学教授 千葉市美術館館長）

「富嶽三十六景 - 刷りと版 -」/ハワード・A・リンク（ホノルル美術館 名誉東洋美術部長）

「ミッチナー夫妻とハワイ、そして日本」/樋口利之（国際アート）

「北斎および北溪・北寿・岳亭の風景画」/浅野秀剛（千葉市美術館 上席学芸員）

「広重・国芳・英泉の風景画について」/鈴木浩平（山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課主査）

#### 図版

- 1 江戸名所
- 2 富嶽三十六景
- 3 諸国名所
- 4 道中絵
- 5 説話の風景

図版解説 / 藤澤紫

#### 資料

絵師略伝・用語解説 / 鎌田純子

作品目録、英文作品目録

#### 関連記事

・産経新聞朝刊「ホノルル美術館所蔵 浮世絵風景画名品展から」

上11月14日 / 歌川広重「名所江戸百景・亀戸梅屋舗」森 充代

中11月15日 / 葛飾北斎「富嶽三十六景・神奈川沖浪裏」飯田 真

下11月16日 / 歌川広重「阿波鳴門之風景」山下善也  
 ・リビング静岡 10月25日 / ホノルル美術館所蔵 浮世絵風景画名品展

・毎日新聞朝刊 11月25日 / 「まちかど」静岡市・浮世絵風景画名品展

関連事業

特別講演会「浮世絵風景画の魅力」

講師：小林 忠氏

(学習院大学教授、千葉市美術館館長)

11月24日(月・祝) 14時～15時40分 講堂

鑑賞講座「北斎と広重 - それぞれの風景」

講師：森 充代 (当館学芸員)

11月15日(土) 14時～15時30分 講座室

特別企画「日本画をじかに見る」

講師：飯田 真、山下善也、森 充代

(当館日本画担当学芸員)

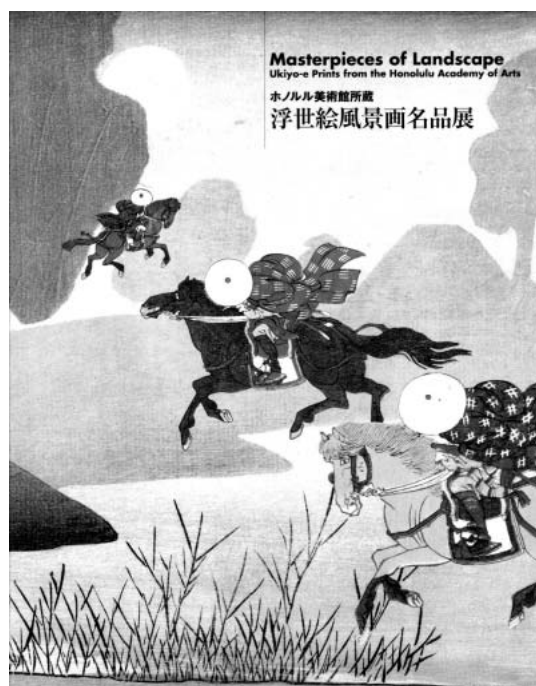
12月7日(日) 13時30分～15時 講座室

定員30名 申込制

出品目録 p.88参照



ポスター



カタログ